

## しもにたしんりん

第7号



ログハウス（軽井沢別荘地内）

## 主 な 内 容

- 第四十回通常総会開催
- 新役員紹介  
代表理事組合長に神戸金貴氏再任（三期）
- デルピス号を群馬県立博物館で展示保存計画
- 荒船湖サマーフェスティバル
- 『関東甲信越ブロック青年建築士協議会』  
群馬大会が開催



## 組合長あいさつ

下仁田町森林組合 代表理事組合長 神戸 金貴

森林・林業の置かれた環境はここ数年更に悪化の一途を辿り、林業という山村を支えてきた産業は生業として成り立たなくなっている事はご承知のとおりです。

材価は一万円以下に張り付いたまままで一向に回復の兆しが見えません。

国の政策は何時の間にか生業としての林業を置き去りにして、響きの良い環境・森林という、大事ではあるが漠然とした範疇にすり替えられており、林業従事者の仕事の現場は希少なものと成ってしまいました。森林組合のような持続した生産活動を目指す組織としては、地域の安定雇用の理想と、組織護持の現実の谷間に苦しんでいるのが実情です。事業量の極端な減少に伴い、高齢化している熟練林業技術者の多くが、経験の少ない若年技術者に職場を譲って勇退を余儀なくしているのが現状です。

暫く若者から見向きもされず、高齢化の一

途を辿っていた林業の現場に、少しずつ若い人が集まるようになり、わが組合でも平均年齢が八歳ほど低下したのは時代の変化です。しかし、平均年齢の低下は一方で技術年齢の低下でもあります。ここに新たな問題が生まれています。地域の林業を守ってきた熟練林業技術者が消えて行く実態です。

戦後六十年、戦争で荒廃した山林への植林はほぼ十年間で（昭和三十一年）で完了し、その後は拡大造林の奨励で人工林は既に四十六十年の適性伐期令に達しています。しかし残念な事に林業政策は全て先送りの感があります。また、財政の逼迫から、環境に森林の効果が大きいという認識と掛け声ほどには事業化に繋がって来ません。

一方で森林組合は森林行政の担い手として今後も期待をされていますが、今まで記しましたような事情から何処の組合もその運営に

先が見えない状態であります。しかし当組合として現在実施しています「新・下仁田方式」の即ち、森林整備と杭1本の打ち込み事業、素材生産、小径木加工センター、更に貯木センターは地域林業の拠点として更に工夫をしながら継続して行きたいと考えています。

下仁田町森林組合は本年は合併四十周年の年ではありますが、敢えて本年は記念行事は実行せずに、五十周年を無事迎えられる組織に向かつての第一年にしたいと考えております。

私は去る五月二十五日の理事会において、みたび代表理事組合長に選ばれました。森林組合が嘗て経験をした事のない厳しい状況の中ではありますが、心を新たに、この難局を乗り切れるよう一層の努力を致す覚悟でありますので、組合員の皆様にも格段のご理解とご協力をお願いいたします。

# 第四十回 通常総会開催

下仁田町文化ホール

四月二十七日(水)下仁田町森林組合の第四十回通常総会が下仁田町文化ホールにおいて午後一時三十分より開催されました。

組合員数一、四八五名のうち一、一七一名(本人出席三二四名 書面出席八四七名)並びに来賓多数の出席のもと開催された。

副組合長小井土洋一より開会の辞に始まり、代表理事組合長の神戸金貴より挨拶がありました。続いて来賓の群馬県議会議員の織田沢俊幸様、下仁田町長岡田常夫様、富岡環境森林事務所長新井隆夫様より祝辞をいただきました。続いて小坂地区齋藤武氏を議長に選出し、第一号議案平成十六年度事業報告、貸借対照表、損益計算書及び損失



祝辞の織田沢俊幸県議



祝辞の岡田常夫町長



祝辞の富岡環境森林事務所 新井隆夫所長

処理案、第二号議案平成十七年度事業計画他全議案が承認されました。組合員三名の方より現在の林業の厳しい現状等について建設的なご意見、要望等があり組合長より答弁がありました。

また、第十一号議案では五月二十四日で役員の任期が満了するので役員選任の件が上程され推薦委員長佐藤克巳氏(小坂地区)より四月五日の役員推薦会議(構成員七十五名)の経過報告及び役員候補者(理事十六名 監事三名)の提案があり全員承認されました。小井土副組合長が閉会の辞を行い通常総会は午後四時終了した。



通常総会出席者

## 新役員紹介

## 代表理事組合長に神戸金貴氏再任(三期)

5月25日理事会

理事  
小金沢 三夫理事  
齋藤 寛副組合長理事  
赤岡 正敏理事  
浜野 信治理事  
小井土 登喜司理事  
須賀 芳明理事  
村岡 勝治理事  
今井 信行理事  
小金沢 友平理事  
岩井 民次理事  
安藤 亀雄理事  
岩井 昌作理事  
市川 宏幸理事  
武田 正理事  
高橋 和夫監事  
永井 篤衛監事  
白石 富雄代表監事  
中村 藤太郎

5月24日の任期満了(3カ年間)に伴い5月25日森林組合の大会議室において代表理事、正副組合長、代表監事、理事の順位、総務・指導・林産各専門委員会の委員及び委員長の選任が行われ決定したので紹介いたします。(平成20年5月24日まで)

## 退任役員

永年に亘り森林組合の運営にご尽力賜りまして誠にありがとうございました。

西牧地区 小井土洋一 石井 忠夫 並木 辺吉  
竹内 健一 土屋 俊夫  
小坂地区 神戸 弘 永井 正之 上原 茂  
諏訪 里治 永井 篤司  
下仁田地区 桜井 茂久 福田 雄夫

役職	氏名
代表理事組合長	神戸 金貴
副組合長	赤岡 正敏
代表監事	中村 藤太郎
総務委員会委員長	齋藤 寛
委員	浜野 信治
〃	今井 信行
〃	安藤 亀雄
〃	武田 正
〃	神戸 金貴
〃	赤岡 正敏
〃	中村 藤太郎
指導委員会委員長	小金沢 三夫
委員	小井土 登喜司
〃	白石 富雄
〃	村岡 勝吉
〃	岩井 昌作
〃	永井 篤衛
〃	神戸 金貴
〃	赤岡 正敏
〃	中村 藤太郎
林産委員会委員長	須賀 芳明
委員	小金沢 友平
〃	岩井 民次
〃	高橋 和夫
〃	市川 宏幸
〃	神戸 金貴
〃	赤岡 正敏
〃	中村 藤太郎

任期 平成17年5月25日～平成20年5月24日

## 平成17年度参与員さん95名を紹介します。

部 落	氏 名	部 落	氏 名	部 落	氏 名
本 宿 下	東 間 一 喜	2 - 2	工 藤 隆 男	清 水	神 戸 熊 夫
本 宿 上	広 澤 聰	3 - 1	大 塚 晏 可	滝 ノ 下	神 戸 康 夫
藤 井	高 橋 紀 雄	3 - 2	小 網 錦 子	赤 谷	神 戸 壮 明
横 間 下	広 澤 信 一 郎	4 - 1	永 井 金 作	土 谷 沢	岩 崎 弘
横 間 上	青 木 民 兵	4 - 2	吉 田 高 次 郎	七 久 保	岩 崎 富 治
中 平	黛 澄 男	5 - 1	松 本 實	平 原	青 木 昌 平
芳 ノ 平	並 木 久 雄	5 - 2	永 井 平 正	桑 本	土 谷 伸 一
中 丸	小 板 橋 巖	6 - 1	飯 島 茂	石 淵 白 山	山 田 廣 太 郎
竹 ノ 入	小 金 澤 満	6 - 2	山 田 旭	安 楽 地 堀 ノ 内	下 山 道 雄
相 沢	丹 羽 初 夫	7 - 1	斎 藤 豊 治	横 瀬 竹 ノ 上 上 ノ 替 戸	今 井 良 忠
三 ツ 瀬	高 瀬 政 美	7 - 2	佐 藤 克 巳	天 神 森 若 宮	岩 井 正 光
中 萱	小 金 澤 一 郎	8 - 1	神 宮 太 平	大 塚 田 城	岩 井 昌 一 郎
東 平	小 金 澤 稔 治	8 - 2	岡 田 実	杣 瀬	大 小 原 和 夫
市 ノ 萱	安 藤 英 雄	漆 萱	東 間 正 治	下 鎌 田	瀬 間 良 一
高 梨 子	小 井 土 善 次 郎	9 - 1	小 井 土 正	上 鎌 田	榊 原 市 夫
屋 敷	石 井 吉	9 - 2	金 井 孝 允	下 蒔 田	永 井 清 雄
根 小 屋 下	神 戸 ハ マ	10 - 1	佐 藤 登 一	緑 が 丘 団 地	高 橋 宏
根 小 屋 上	並 木 袈 裟 雄	10 - 2	佐 藤 章	上 蒔 田	牧 野 美 夫
小 出 屋	清 水 朝 雄	11 - 1	松 本 弘	下 仁 田 1	林 勝 治
黒 川	黛 友 次 郎	11 - 2	佐 藤 友 治	下 仁 田 2	中 村 三 郎
中 野	小 井 土 弘 弥	12 - 1	金 井 静 雄	東 町	岩 崎 栄 子
清 水 沢	岩 井 茂	12 - 2	金 井 敬 作	川 井 下	神 戸 巖
大 栗	佐 藤 唯 詞	13 - 1	神 戸 武 雄	川 井 上	掛 川 清 司
新 屋	園 部 錠 吉	13 - 2	松 本 昇	吉 崎 下	大 井 田 利 夫
瀬 成	園 部 雄 司	小 北 野	岩 井 義 治	吉 崎 上	佐 藤 栄 一
芝 ノ 沢	佐 藤 和 久	大 北 野	赤 岩 平 三	栗 山 下	今 井 三 男
初 鳥 屋	佐 藤 一 男	下 郷 風 口	小 瀬 勝 三	栗 山 上	田 村 三 郎
小 平	柳 澤 行 雄	宮 室	今 井 信 行	高 倉	田 村 金 光
萱 倉	小 井 土 直 吉	井 戸 ノ 上 東 上 下	島 崎 幸 彦	旧 道 平	神 宮 安 治
高 立	土 屋 安 泉	跡 関	高 橋 寛 之		
1 - 1	斎 藤 武	日 向	神 戸 朗		
1 - 2	林 久 太 郎	日 影	福 田 巳 富		
2 - 1	磯 田 利 一	峯 大 石	福 田 文 孝		

平成十七年度

## 林業振興功労者表彰受賞

甘楽富岡林業振興協会



七月二十八日に甘楽富岡林業振興協会（会長 岩井賢太郎氏）の通常総会がヴァンヴエール（富岡市）において開催されました。その席上において

前副組合長理事の小井土洋一氏が平成二年五月から平成十七年五月まで森林組合の役員（監事三年間、理事十二年間うち副組合長を六年間）として組合発展と地域林業の振興に貢献され、協会長表彰の栄に浴されました。おめでとうございます。

## 森林組合人事

## 採用（職員）

神沢 義栄（平成十七年五月一日付）

## 採用（従業員）

緑の雇用 鳥羽 義憲（平成十七年六月一日付）

〃 曾根 聡（平成十七年六月一日付）

## 退職（職員）

高橋 芳（平成十七年四月三十日付）

金田健太郎（平成十七年五月三十一日付）

神戸 俊幸（平成十七年五月三十一日付）

## 退職（従業員）

水谷 弘之（平成十七年四月二十日付）

今井 敦（平成十七年六月三十日付）

## デルピス号を群馬県立博物館で展示保存計画

昭和四十年代から下仁田町森林組合は集団間伐事業の取組みにあたりもつとも重要視される作業道の開設を進めている。これによって生まれ伐出作業の体系を変えた林内作業車デルピス号を群馬県立博物館で展示保存計画があります。今回計画の中心メンバーである高崎経済大学大島教授よりお話を頂きましたので掲示します。

## デルピス号今昔

デルピス号とは、一九六五年に現下仁田町内の三森林組合が合併して、林業構造改善事業を進めようとする頃、上小坂の故佐藤智太郎氏を中心とした農林機械研究所によって開発・販売された林内作業車の愛称である。すなわち、林業関係業界で全国的にも脚光を浴びた下仁田方式といわれる先駆的な集団間伐を進めるために、組合主導で濃密度の作業道路網の整備が推進されるなかで、狭隘でカーブが多く急な道路を介した林内作業に威力を発揮するように設計されたのがデルピス号だった。その形状は、狭隘路に適した前一輪、木材搬出を基本とした設計で、後にトレーラーのついた九WD（後部が二軸でダブルの四輪）で丸ハンドル（大型タイプ）も製造されたが、間伐の跡地各所が椎茸栽培地に転換されると、その関連作業に適した三輪レバーハンドル（小型タイプ）も製造されるなど、多様なニーズのバリエーションが製造・販売され続けた。まさに、高度経済成長期における下仁田の林業の技術革新と発展を支えるとともに、下仁田の椎茸栽培発展の原動力となった車両といえよう。

こうして、森林組合内ではもちろん、個人の森林所有者や椎茸栽培者などに幅広く愛用された。しかし、かつて町内各所に見られたデルピス号も、製造元の農林機械研究所が、ニーズの多様化に応じたコストの増大や木材価格の低迷などから、平成初旬に製造を中止したため、近年急速に姿を消しつつある。

群馬県立歴史博物館（高崎市岩鼻町）では、この度、このデルピス号が下仁田町オリジナルな地場産業との認識にたつて、年内にも町内から現役車両の貸与を受けて展示する計画があり、将来は永久保存したい意向だという。下仁田町内でも、下仁田町森林組合などで、地域の遺産として後世に残すべく、現物や資料の保存を手がけることを要望したい所存です。

（高崎経済大学経済学部教授 大島 登志彦）



デルピス号にて搬出している様子



運輸大臣指定小型特殊自動車デルピス号 660型

# 荒船湖サマーフェスティバル

下仁田町実行委員会の主催による「第十三回荒船湖サマーフェスティバル」が、荒船山の東麓、鑄川の支流道平川地内荒船湖で行われた。豊かな森林に囲まれた水源地の湖に、たくさんの家族連れが集まり、マスつかみ取りやロッククライミング、だるま落としなどに賑わいを見せた。

このフェスティバルは「森と湖に親しむ旬間」行事の一環として森林やダム河川について理解を深めることを目的として実施されている。開催にあたり、主催者岡田下仁田町町長は「生活に蜜着した水の大切さを、自然の中で満喫しながら感じて下さい。」また群馬県富岡土木事務所粕川所長は「治水や利水といった役割を持つダムの機能を理解いただきたい。」と挨拶された。来賓者では、下仁田町議会堀口議長は「森林環境とダムの役割を広く皆様に理



ロッククライミングを体験中の子供達

解いただければ幸いです。」と話され、小淵衆議院議員は「私たちは自然に守られ育っていることを忘れてはいけません。」と述べられた。下仁田町森林組合ではロッククライミング、丸太きりを企画し、子供たち百八十人が高さ七・五メートルにチャレンジし大盛況となった。



▲丸太切りに挑戦する小淵議員

▼初めての丸太切り



## 群馬県産木材フェア

ふるさとの木を使おう

林業や木材産業をめぐる現下の状況は、長引く木材価格の低迷により、森林所有者の意欲が減退し、手入れの行き届かない荒れた森林が増加している。そのため、間伐の緊急実施と併せた木材利用の拡大が緊急の課題であり、県、市町村が率先して利用促進を進めるとともに、広く民間への普及が不可欠である。



今回組合で展示するものと同等のログハウス(軽井沢ゴルフ場内)

そこで県産材を利用した家具、住宅部材、土木資材等の展示を行い、広く県民に向けて県産材の需要拡大をPRする。

会 期 平成十七年九月九日(金)から  
九月十一日(日)

会 場 グリーンドーム前橋

事業内容

- ① 家具、住宅部材等の木製品の展示  
および販売
- ② 木工工作教室の開催
- ③ こどもが遊べる遊具の設置
- ④ 木製品が当たる抽選会等のイベント

## 『関東甲信越ブロック青年建築士協議会』群馬大会が開催

「人・建築・温森（ぬくもり）物語」をテーマにした平成17年度関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会群馬大会が16～18日の3日間伊香保町で開催され、1都9県の青年建築士約500人が参加した。

大会の内容は、それぞれの地域での実践活動や研究発表、屋外研修を行なった、群馬県という開催地から下仁田町森林組合を研修場所とし「木」をテーマに、若い建築士が国産の木を理解しているか、頂けるか、森に入り、木に触れ自然素材の良さを体感する目的で、平原地内の伐採現場、原木市場を小井土指導課長が案内した。見学を通して、①国産材は高い印象があったが、使いやすい価格。②切り出して製品になるまでの大変さ。

③温暖化対策に役立っている事など理解される様説明した。木のぬくもりを通じて住環境の提言を行い、広く消費者等にアピールしていきます。



石淵貯木センター

## ●杉の木加工センター事業紹介●

## 土木工事に木材の適切な利用を積極的に推進

木材は再生可能で加工に要するエネルギーが少なく、地球環境への負荷を与えることの少ないトータル的な低コストの資源として注目され、各分野で積極的に利用されています。

①丸太筋工 山腹斜面の表土流出防止をはかり、時間の経過とともに自然還元される。

②丸太積土留工 林道、作業道、などの山側土留用に施行される。



▼丸太積土留工



▲丸太筋工

## ●森林の整備の保全に向けて●

森林保有者の責に帰しない原因により現況が悪化または破壊され、機能が低下した保安林を植栽等によって復旧するための事業を実施しました。この様な山林がありましたら、組合までご連絡ください。



復旧前



復旧後

「組合員の声」を広報誌へ  
当組合では次回より「組合員の声」ということで広報誌に掲載したく原稿を募集しています。林業に関するご質問・ご意見・感想等何でも良いですから是非手紙又はメールにより投函してください。お待ちしております。

編集部より

2005年8月  
発行 下仁田町森林組合

群馬県甘楽郡下仁田町大字下小坂45-7

TEL 0274(82)2306

http://www.snt-shinrin.or.jp

E-mail shimonita@snt-shinrin.or.jp